

「客観報道」再構築へ

動き出したBBC「ジャーナリズム大学」

倫理の共通理解深める

イラクの大量破壊兵器をめぐる疑惑報道で、英国放送協会（BBC）が英政府と激しく対立し、トップ2人が辞任してから2年半。信頼回復の切り札として、BBC内に設立された「ジャーナリズム大学」が活動を本格化させている。その客観報道で世界的に高い評価を受けてきたBBCは、何を守り、何を記者たちに伝えるべきか危機感を乗り越えようとしているのか。ピン・レイ学長に聞いた。

（ロンドン 木村伊世）

ピン・レイ学長に聞く



1987年、BBC入局。ニュース番組のプロデューサーや国際報道エディターなどを歴任。96年、「ワールド・ニュース」エディター。今年1月から現職。48歳。

「ギリガン問題への反省が、大学設置に結晶したわけですね」
「ギリガン問題は深刻な課題を提起しました。最も重要なことは、BBCの根幹である倫理的価値について共通の理解を深めることです」
——具体的に？
「偏らない報道姿勢という一般論はたれもがうたう。しかし、公平な態度が意味するものを突き詰めて問うと、意見は微妙に分かれる。単に二つの異なる立場を紹介すれば、それが公平な報道姿勢なのか。個々のケースで客観報道の意味を掘り下げて考えることを重視しています」

——教育の対象は？
「2万人以上のBBC職員のうち、記者、プロデューサーら報道分野にかかわる部門の8割にわたる。双方向性のトレーニングです」



BBC 英国内外にテレビ、ラジオ網や、インターネットのサイトをもち、国際テレビは24時間・地域に2時間放送する世界有数のメディア。1922年、無線通信会社の子会社として発足。その後、国王・女王の特許状を受けて運営する現行の公共事業法に改組された。政府から独立した「客観報道」を掲げ、視聴者の高い信頼を得てきた。

危機に直面した巨大メディアが身をよじるなか、打ち出したのは、徹底的な組織刷新と、「われわれが守るべき価値のDNA」とは何か、という問いを全職員で共有する作業だった。

ジャーナリズム大学の開設はBBC改革の中核に位置づけられ、パイプライン副会長は、ジャーナリスト教育に支出している年間100万ポンド（約10億円）の費用を08年まで

ギリガン報道問題で設置

イラクの大量破壊兵器をめぐる、03年5月のBBCラジオ生番組で、同局のアンドリュー・ギリガン記者は、首相官邸が情報操作のために危機を誇張したとの内容を報道。これを全面否定する英政府とBBCとの対立が深まる中、情報源として浮上った国防省顧問が自殺した。

BBCは独自にギリガン問題を検証するとともに、真実と正確さ、独立性、不偏と意見の多様性、説明責任などの価値を再確認し、改革の方向を定めた「ニール報告」を同年6月に発表した。この中で「ジャーナリズム大学」が提唱され、1年後に設置された。有力

メディアが体系的なジャーナリスト教育を乗り出したのは初めて。日本では朝日新聞社が、連年の不祥事を受けた信頼回復策の柱の一つとして「朝日ジャーナリスト学校」を今年1月に開校。2カ月にわたる新人記者研修を実施した。

——将来構想は？
「いずれは報道分野にかかわる局員がBBCに在籍する全期間を通じて教育できる態勢を整え、BBC以外の記者や一般市民にも門戸を開きたい。外部向けの大学のウェブサイトの開設も準備中です」

守るべき価値変わらぬ

外部の視点からBBCの報道を点検することはないのか。
「ギリガン問題では、報道機関の独立性が問われ、外部の人たちの意見も

BCが掲げる価値について、多種のフィルム、種類のオンライン教材を作成中。そこにはBBCの価値や立場に批判的な外部の人たちの意見も

——技術革新などメディア環境が刻々と変化している中、BBCも変化は避けられませんか。たが、いつの時代でも、真実の追求や政府からの独立性の確保といったBBCが守るべき価値は不変です。ジャーナリズム大学の役割は、そうした価値の伝承を担うことです」

複雑・高度化するメディア環境

紙やラジオ局の訓練生に、この基礎を積み重ね、パイプライン副会長は、ジャーナリスト教育に支出している年間100万ポンド（約10億円）の費用を08年まで

情がある。BBCのジャーナリズム大学新設の決断にも、専門知識、技能、価値判断の面で記者の総合力

に、ジャーナリズムの質に切り込む研究も活気づいている。ロンドン・シティ大学では、すべてを再認識すべきだ」と話

を学生より人が手分けしてチェックし、比較分析する計画が進んでいる。ロイター通信の政治記者などを務めた同大のアナ・マケイン研究部長は「ギリガン報道は人筋で正しくても、複数の情報源にあたらないミス